

野菜増産のための技術支援

ねらい

徳島県では平成24年度から平成28年度を目標に、「野菜の作付面積1,000ha拡大」に取り組んできました。この中でブロッコリーは県下全域で増産に取り組む品目に位置づけて、安定生産を図るための様々な技術的課題の解決に取り組む必要があります。そこで、地域毎に解決が必要な技術的課題を設定し、対策技術の導入支援に取り組みました。

活動地域・対象

地域：県下全域
対象：ブロッコリー生産者

普及活動の目標

ブロッコリー栽培面積 700ha
安定栽培技術マニュアルの作成

目標に向けた活動概要

- 1 湿害対策軽減技術の普及支援（県南地域）
 - ・苗質の違いによる湿害軽減対策展示ほの設置
 - ・二軸整形ロータリによる高畦および畦内排水促進技術の展示ほの設置
 - ・湿害に強い品種の選定展示ほの設置
- 2 難防除病害虫防除対策技術の普及支援（県下全域）
 - ・根こぶ病対策技術の周知
 - ・コナガの効果的防除技術の周知



二軸整形ロータリ実演会



根こぶ病対策講演会



品種展示ほの現地検討会

- 3 新增産技術の普及支援（県下全域）
 - ・地下水位制御システム（フォアス）による連続栽培技術の実証（県南地域）
 - ・二花蕾どり栽培技術（1つの株から頂花蕾と側花蕾の2花蕾を収穫する）の展示ほ設置



地下水位制御システムほ場での初夏どり栽培



二花蕾が発生した株

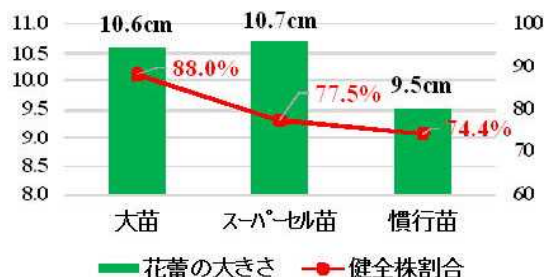


二花蕾どり展示ほの調査

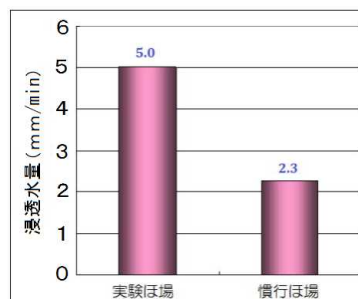
普及活動の成果

1 湿害対策軽減技術の普及支援（県南地域）

- 苗質の違いによる湿害軽減対策（阿南市、海陽町）
慣行苗（200穴）に比べて大苗（128穴）、スーパーセル苗が湿害に強いことがわかりました。
- 二軸整形ロータリによる高畦および畦内排水促進技術（阿南市）
慣行畦に比べて二軸整形ロータリで立てた畦の排水性が良いことがわかりました。



苗質の違いによる湿害への影響調査結果



畦内の透水性調査結果

- 湿害に強い品種の選定
「しげもり」「むつみ」を湿害に強い品種に選定しました。

2 難防除病害虫防除対策技術の普及支援（県下全域）

- 根こぶ病対策技術の普及
薬剤、抵抗性品種に加えて、土壌診断による酸度矯正、排水対策などの栽培環境を整備することで、根こぶ病の発生を軽減することができました。
- コナガの効果的防除技術の普及
ブロック式ローテーション防除により、コナガの発生を軽減することができました。

3 新增産技術の普及支援（県下全域）

- 地下水位制御システム（フォアス）による連続栽培技術の実証（阿南市）
排水機能と地下灌水機能を併せ持つ地下灌漑システムにより、冬どり（9月定植、1～3月収穫）と初夏どり（4月定植、6月収穫）の連続栽培ができました。
- 二花蕾どり栽培技術の適応性の検討
展示ほを県内3カ所（阿波市、海陽町、那賀町）に設置し、気象条件の異なる地域での適応性を検討した結果、3月に1花蕾目の収穫ができましたが、側枝がほとんど発生せず、2花蕾目の収穫ができませんでした。
28年度も展示ほを設置し、側枝未発生の要因を調査しています。

ブロックリー栽培面積 目標 700ha → 実績 615ha
安定栽培技術マニュアルの作成 指導者向けの栽培マニュアルを作成、配布

用語
説明

二軸整形ロータリ：細土軸と耕耘軸の二軸を有し、深さ0～10cmの表層は細土軸で細かく砕土し、深さ20～30cmの下層は耕耘軸で粗く耕して畦を立てる。
ブロック式ローテーション防除：薬剤抵抗性管理という考え方に基づき、作用機構が異なる薬剤を順番に用いて、コナガを効果的に防除する方法。

今後の発展方向

2花蕾どりの側枝未発生の要因を明らかにして栽培技術を確立し、現場への普及を図ります。

関係者からの声

生産者：二軸整形ロータリは、作業性の省力化にもなり、計画的な作付けができた。
地下灌水システムは安定した灌水ができ、初夏どりのブロックリー栽培ができた。

高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660

tel：088-674-1922